

財不適合マ主スル親ナシイ諸ム  
 イ般スマ可イ諸ム少クイ子々マ獨立ノ麻博イヌル爲ニ些少子不  
 本博ハ麻博及營業外益博イ獨立ヌル子ハナクマ以テ獨立ノ麻博  
 博トマセムヘクマスイヌル博ノ理由マ意見ヌルロイ諸ハス ○  
 ◎單ニ其ノ派左マ租博博イヌルマ可イスイ云テニ止マリ及ヌ租博  
 亦ニ難スル意見  
 博博ノ博率マ同トマセムロイマ望ム  
 一 資本博博博ハ實質上租博博博同一ナルマ以テ博ニ薄博博博博博博  
 資本博博博博

日本經濟聯盟會ノ稅制整理ニ關スル建議ニ對スル意見  
 一 株式配當ノ綜合課稅ヲ廢シ資本利子稅ヲ課スルニ留ムルコト  
 建議ノ要旨

- 綜合課稅ハ商工業ノ發展ヲ阻碍ス……四割控除ニテハ負債ノ利  
子ヲ充分ニ控除スルコトヲ得ス ○累進稅率ナルヲ以テ利廻リ  
ヲ計算シ難ク株式投資ヲ躊躇セシム ○同族會社ヲ簇生セシム
- 源泉課稅ハ財政上不都合ナシ……資本利子稅ヲ以テ現在ノ綜合  
課稅ニ相當スル稅額ヲ擧クルコト容易ナリ ○徵稅費少ナシ
- 社會政策上源泉課稅ヲ可トス……他ノ廢減稅トノ權衡上株式配  
當ニモ或程度ノ便宜ヲ與フルヲ可トス ○事業界活動スレハ一





當ニテ延野選ノ便宜ヲ與テハモ可イヌ ○事業界諸種ノハ一  
 ○協會選業ノ新泉縣貸マ可イヌ……並ニ選野貸イノ縣選土村友選  
 縣貸ニ併當スル貸賚マ舉ルハ可イ容易ナリ ○選野費也ナシ  
 ○新泉縣貸ハ租選土不適合ナシ……資本隊千貸マ以テ其貸ノ適合  
 マ指算シ難ク村友選賃マ觀測ナシム ○同選會採マ難主ナシム  
 千マ衣位ニ整納スルハ可イモ勝ス ○果選賃率ナシマ以テ既選  
 ○綜合縣貸ハ商工業ノ發見マ困難ス……四時選納ニマハ負責ノ隊  
 振難ノ要旨

一 村友選賃ノ綜合縣貸マ選ニ資本隊千貸マ賚スルニ留ムルハ可イ  
 日本選賃聯盟會ノ選野選野ニ關スル振難ニ據スル意見

般國民ノ福利ヲ増進シテ社會政策ニモ資スルコト、ナル ○綜  
 合課税ニテハ納稅資格ナキ小納稅者ニモ平等ニ課税スルコト、  
 ナルモ公債社債トノ比較上寧ロ權衡ヲ得ルコト、ナル  
 ○租稅體系上相當ナリ……株式配當ハ公債社債等ト性質同一ナル  
 ヲ以テ其ノ稅率モ此等ト同様ニシテ源泉課税ヲ爲スラ妥當トス  
 右ニ對スル意見

◎所得稅カ商工業ノ發展ヲ阻碍スト云ハ、他ノ租稅モ皆然リ然レ  
 トモ綜合課税ハ一般所得稅ノ根本思想ニシテ第二種所得ヲ除ク  
 ノ外他ノ所得モ皆綜合スルモノナルヲ以テ特ニ株式ノミニ付此  
 ノ主張ヲ認ムルコト能ハス（公債社債等ハ已ムヲ得サル例外ナ  
 リ） ○現行制度ニテハ負債利子ノ控除ニ付不十分ナル場合モ



り) ○ 既許財源ニテハ負荷降下ノ盤割ニ付不十分ナル聯合子  
ノ主産ヲ課スルコト道ハス(公同協賛等ハ)トムモ併セハ同族ナ  
ハ其外ノ既許子若聯合スル子ハナクモ以テ併ニ料友ノシニ付此  
イ子聯合協賛ハ一盡既許者ノ財本思慮ニシテ兼二箇既許ヲ納ム  
◎ 既許者ノ商工業ノ發展ヲ阻害スルコトハ、此ノ既許子若然リ然  
亦ニ儘スル意見

マ以テ其ノ既許子此等ノ同財ニシテ源泉既許ヲ爲スル發當イテ  
◎ 既許者系上既許者ナリ。料友適當ハ公同協賛等イ若賣同一ナル  
ナルコト公同協賛イハ其薄土率ノ既許ヲ納ムルコトイハセム  
合既許ニテハ既許者ナキ小協賛者ニテ平等ニ既許スルコトイハ  
幾箇既ノ協賛ヲ課スルマ協賛者ニテ課スルコトイハセム ○ 協

無キニ非ス成ルヘク之ヲ合理的ニ改ムルヲ可トスヘキモ現今ノ  
状態ニテハ實行上已ムヲ得サル所ナリ ○ 利廻計算困難ナルハ  
個人營業等他ノ所得ニ付テモ同様ニシテ累進税率ノ當然ノ結果  
ナリ ○ 同族會社ニ付テハ適當ナル規定ヲ設ケ之ヲ活用スヘキ  
方針ナルヲ以テ今後益々簇出スルモノトハ認メス  
◎ 財政上不都合ナシト云フモ現在ノ歳入ヲ得ルタケノ税率ヲ以テ  
源泉課税スレハ歳入總額ニ變化ナキコト勿論ナレトモ大資産家  
ノ受クル配當モ小資産家ノ受クル配當モ平等ノ税率ヲ以テスル  
コトハ負擔能力ヲ無視スルコト、ナリテ不可ナリ

◎ 社會政策上源泉課税ヲ可トスヘキ何等ノ理由ナシ  
◎ 租税體系上相當ナリト云フ點モ例外ヲ以テ原則ヲ律セムトスル











○ 諸君ノ事業ニ益致サシムルニ要テリ  
茲 籍ノ要旨  
スルロト

三 外國ニ就テ専ニ經營スル事業ヨリ生スル所得ニシテ所得税ヲ免納  
至リテ百分ノ四十ヲ賜ナリ

○ 課税ニ就テ手戻付金ハ貸率百分八割額ニ課サズ最高八萬圓額ニ  
限ニシテ最高三萬圓額ノ所得ニ課シ百分ノ三十ヲ賜ナリ

○ 實付金ノキハ貴ク英國ニ就テハ綜合所得税ノ貸率ハ前々十二割  
實付上ノ不剩ナリ

○ 所得税スルロトイハレ得ス ○ 課税ニ課税スルロトイハレ手戻ニ併賦  
○ 所得金額ノ差額ナル所得ナル所得ナル所得ニハ所得金額ノ課税

○ 外國ノ課税ト重複スルコトモアリ

右ニ對スル意見

○ 一應ノ理由アリト認メ政府ニ於テモ慎重ニ考慮中ナリ然レトモ  
海外事業ノ投資ノミニ特典ヲ與フルコトハ内國ノ事業トノ權衡  
モアリ尙研究ノ餘地アリト認ム

○ 法人ニ付テハ大正九年改正前ヨリ外國事業ノ所得ニモ課税シタ  
リ

○ 外國事業ノ所得ニ對シ全部免税スルトキハ財政上影響スル所尠  
カラス

○ 國際間ノ二重課税ニ付テハ各國相當ノ苦心ヲ拂ヒ國際聯盟等ニ  
於テモ今尙研究中ナリ



○ 従来より令尚衝突中ナリ

◎ 國税關ノ二重課税ニ付テハ各關賦當ノ苦心ヲ時々國税關盟等ニ

云ラス

◎ 税關事業ノ復讐ニ據シ全陪復讐スルハキハ根拠土銀券スル復讐

ニ

◎ 遊人ニ付テハ大五尺半迄五兩ニリ税關事業ノ復讐ニ付備付タル

チテリ尚衝突ノ餘此テリイ諸ノ復讐ニ付三十五兩ニ

新快事業ノ遊資ノシニ特典ヲ與テハロイハ内國ノ事業ノ一聯

◎ 一連ノ理由テリイ諸ノ復讐ニ付テリ遊重ニ等觀中ナリ然レイチ

本ニ據スル意見

◎ 税關ノ復讐ノ重税スルロイチテリ

四 地方税ノ制限外課税ヲ認メサルコト

建議ノ要旨

○ 法律上一定ノ制限アルニ拘ラス例外トシテ殆ト無限ニ増率セシ

ムルハ不當ナリ

右ニ對スル意見

◎ 地方財政ノ現状ニ照シ直ニ之ヲ採用スルコト困難ナリト認ム